

「実習をふりかえって」

[公立中学校 理科]

3週間という実習期間が本当に短く感じる程、あっという間に最終日になっていった。HRクラス、授業観察、授業実習、研究授業で感じたことや考えたこと、反省点がとてもたくさんあった。

HRクラスでの朝、終学活で初めの頃はとても緊張し、たどたどしかった私は生徒たちをすごく不安に感じさせてしまっていたと思う。それでも生徒たちは私の話を静かに聞いてくれていた。生徒たちに積極的に話しかけることでしだいに仲も深まり良い関係を築くことができたのではないかと思う。しかし、今思うと休み時間以外でも朝、終学活などを利用して生徒との関係を築くことができたのではないかと感じる。

授業観察では、理科を中心に様々な先生方の授業や実習生の授業を観察した。先生方の授業は、生徒たちにどのようなことを考えさせたいのか、どのような力をつけさせたいのかということが考え抜かれた授業展開となっており、プリントや板書、授業の中でも工夫が所々に見られた。また、知識の豊富さが実習生と先生方とではやはり大きな差があった。指導教官の行う授業を観察していても、単元における発展的な知識や単元の内容を自分自身と関連させるための話の豊富さをすごく感じた。私自身にこのような知識が少なすぎることを痛感した。また他の実習生を見ていてもこの点において、先生方とは大きな差があり、教材研究は、いくらしても全く足りず、教科の専門性をもっと高めていかなければならないと強く感じた。

実際に授業を行っていく中で、教えることの難しさを改めて考えさせられた。授業の展開を考えた上で授業を行ってみても、生徒の反応は思うようなものではなく、自分がいかに生徒目線で授業を考えることができていなかったかを思い知った。授業実習では、実験や観察を多く行ってきたが、初めの方は目的だけを伝え、実験・観察を行っていた。しかしそれでは目的は達成できても目標が達成できず、結果からの考慮を考えさせることができない実験や観察になってしまっていた。目的さえおさえておけば生徒はわかるだろうという生徒目線に立てていなかった私の考えの甘さだったと思う。このことは授業の展開を改めて考え直すきっかけとなった。授業中の生徒の表情や態度を見ると自分の授業の至らなさを毎回考えさせられ、何度授業を行っても納得のいく授業にならなかった。生徒の目線となって授業を行うことは本当に難しく、反省と改善をくり返してより良い授業にしていかなければならないと感じた。また道徳においても2回授業を行ったが、生徒に考えさせる時間を多くとることが大切であると感じた。多くの発問をなげかけると50分という授業時間では、到底時間が足りず、深くまで突き詰めることはできない。発問を厳選するためにも教材を読み込み、しっかり研究しておかなければならないと感じた。

研究授業では、たくさんの先生にみられる中授業を行いとても緊張した。そんな緊張の中行われた授業だったが、生徒全員が私の授業を必死で受けてくれていることをひしひしと感じた。授業時間が超えてしまったにも関わらず、不満を言う生徒は誰一人いなかった。生徒も私のために全力で授業に向かっていたのだ。そんな生徒たちの顔を思い出すと、今でも本当に胸にくる思いがあり、これから教師を目指す上での心の支えになるように思う。

3週間の教育実習を通して生徒との向き合い方や教えることの難しさ、教師という仕事の多忙さを考

えさせられた。しかし、毎日の生徒たちの顔を見ると3週間を通して日に日に教師になりたいという思いは増していく一方だった。お忙しい中ご指導いただいた先生方に感謝し、これからも精進していきたい。